

第40回礫珉展 入賞作品審査講評

審査委員長 青木 勇治

第40回記念賞「観戦 VS 感染」池田 修

老若男女に動物まで加わり、食い入るように観戦している。その表情やまなざしから熱戦が繰り広げられていることが感じさせる。ポーズの多様さ、光による陰影の表現、巧みな配色で緊密な構図をつくっており、感染終息を見ずして祈るような気持ちも重ねられている。

中野市長賞「マンダラ」金井 徳重

密教の教義を図にした曼荼羅をりんごの円の配置や重なりで表現している。青の主調色の中心に置かれたりんご、空間に漂い浮かぶりんご、いずれも表情があり、それぞれが何かを訴えかけているようだ。円と線の複雑な構成、濃淡や対比を生かした構図が美しい。

礫珉賞「輪・人」山本 嘉歳

深い青の中の群像で、表情はうかがい知れないものの、人と人の「輪」のようなつながりを感じさせるあたたかさがある。時間や場所を超えた人々の営みや生きることの意味まで問いかけているようだ。青の濃淡の中に光を受けた白、赤の配色が画面を引き締めている。

峯樹会賞「タンク」阿部 賢二

錆びたタンクの圧倒的な質感と量感が心に迫ってくる。自然の中に朽ち果てたタンクは、まるで年輪を重ねた人生を感じさせるようなあたたかさ、なつかしさ、時間を感じさせる。黄昏の中、なお存在感を主張するタンクの力強さ、幼木を配した構図の工夫に魅了される。

中野市議会議長賞「みつめる」池田 憲一郎

青、赤、黄、緑の明るく飛び出してきたような色の美しさや輝きが魅力的だ。コラージュを巧みに配し、月夜の動物たちの競演、幻想的な世界をいとおしく演出している。豊かな色のバリエーション、さりげない構図の工夫、音楽が聞こえてきそうな楽しい表現がすばらしい。

中野市教育委員会賞「3頭」佐藤 倉由

ブタ3頭を方向を変えて大胆に配した画面が印象的だ。オレンジ、黄に対して黒、緑、青を面積を考慮して対比させ、見る者に迫ってくる。タッチはやわらかく、青空の中、ふくらみやあたたかさを感じさせ、ブタの表情とともに生き生きとしたみずみずしい表現となっている。

会員奨励賞「歳月」徳竹 孝之

かつては賑わいを見せたであろう店が今は廃墟のようにになっている。風雨にさらされた姿の中に、郷愁や歴史、時間を感じさせる。背景のマチエール、光の反射、青や緑のアクセントを効かせた巧みな配色、ありし日のなつかしさを彷彿とさせる美しい表現となっている。

奨励賞「故郷眺望」池田 美佐子

あたたかくすがすがしい故郷の山、心の中にいつも在る風景を強い存在感で描いている。前景から遠景へと広がる眺望、濃淡を効かせたキュービクなタッチ、神々しく凜とした山並み、心が洗われ、引き締まるような風景。色の重なり、光を感じさせる表現が美しい。

奨励賞「浜津ヶ池の希望」山下 真由美

幻想的で生命の躍動を感じさせる生き生きとした表現が新鮮。大気、自然、植物、花、水が織りなす自然の営みを淡い色と立体感のある濃淡の彩色で美しく力強く表現している。長いコロナ禍、美しく咲く花や自然から希望を見出し、勇気や励ましをもらっているようだ。